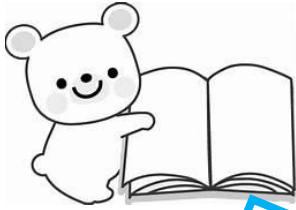


ほんじつ ～本日のおすすめの本④～



まち 『きみの町で』

しげまつ きよし さく ミロコマチコ え
重松 清 作 ・ ミロコマチコ 絵

あさひしゅつぱんしゃ ねんしよほん
朝日出版社(2013年初版)

*この本は 9類の書棚にあります。(貸出可能)

みなさん、こんなことを思ったり、経験したことはありませんか？

電車の中で座っていると、目の前に二人のお年寄りが立っていました。「席をゆずらなくちゃ」でも、一人にゆずれば、一人しか座れない。みんなが、「なんでお年寄りに席をゆずらないの？」という目で自分をみているような気がする…。席をゆずりたくても、真合が悪くて、ゆずれない…。でも、自分が本当は真合が悪いなんて、まわりからはわからない…。

本当は大好きなのに、逆のことをしてしまう…。

いっしょに…って、なんだろう？お友達と同じように、トイレへ行きたくなくてもついていく女の子。わたしたちは、仲良しだからいつもいっしょにいるのだろうか？それとも、いっしょにいないければ、悪口をいわれるのが怖くていっしょにいるのかしら…？

自分って、なに？みんなが見ている自分は、本当の自分なのかな…？

自由って、なに？世の中は本当に自由なのかな？生きていくことには、実は、不自由なことが、たくさんあるよね…。

自分を幸せだと感じることはめったにない？「やっぱり幸せなんだろうな」と実感するのは、決まって悲しいニュースや人の不幸を見たとき…。

重松 清さんが、思いを込めてすべての人に贈る、短いおはなしが8編はいった本です。これを読んで、「あ～、そういうこと、よくある」とか、「この主人公の気持ち、まさに今の自分のことだな」と思うことがきっとありますよ。

小学生から大人まで共感でき、手元に置きたい一冊になる本です。ぜひ読んでみてください。

・自分で読むなら5年生～
・読んでもらうなら3年生～

今年度から、5年生の国語の教科書に「カレーライス」という重松 清さんの作品が載っています。(昨年度までは6年生の教科書に載っていました。)重松 清さんの作品は、子どもたちが必ず経験する社会との関わりを題材としているものが多く、大人も共感できる場面が多数登場します。ぜひ、ご家族の中、教室の中でも「あ～、わかる！この気持ち」という感覚を共有していただけたらと思います。

